

白糠こども園落成式



上) 落成の祝いに、こども園の5歳児による「くす玉割り」が行われました。

右) 自身の光輝く未来を信じて、元気いっぱいにお遊戯「ジャンプ!太鼓MAX (マックス)!!」を披露しました。



8月20日(土)の午前9時から白糠こども園の新園舎落成式が行われ、関係者約40人が完成を祝いました。
新園舎は、白糠学園の西側に増築、鉄筋コンクリート造の2階建てで、

1階に白糠こども園と子育て支援センター、2階に子ども発達支援センターが入っています。また、楽しみながら体力をつけられるように、プレイルームと屋外にボルダリングを

整備しました。

式典では棚野孝夫町長が「子どもを安心して預けることができ、育てる喜びが感じられるように、地域の子育て支援の拠点としての役割をしっかりと果たすと共に、幼児教育をさらに充実させていきます」と式辞を述べました。

鋼路総合振興局の菅原裕之局長は「将来を担う子どもたちがこの施設で伸び伸びと心豊かに成長し、家族が喜びと生きがいを感じて暮らせるよう、より一層のすばらしい保育サービスの提供を期待しています」、町議会の富田忠行議長は「東日本大震災以降、不安視されていた立地の問題が解消され、議会としても非常に喜ばしい」と祝辞を述べました。

祝電披露に続いて、こども園の運営と子育て支援センターの業務委託を受けている学校法人二葉学園の漆崎高理事長が「このような立派な園舎ができて大変うれしい。魅力ある園づくりに一層努めていきます」とあいさつ。子ども発達支援センターの業務委託を受けている社会福祉法人北海道社会福祉事業団の内海敏江理事長は「来週から通う子どもたちの喜ぶ顔が目に見えます。こども園や子育て支援センターと連携した

がら、子どもたちが伸び伸びと成長していけるように尽くします」と感謝を述べました。

最後に、白糠こども園の5歳児がくす玉割りとお遊戯を披露し、新園舎の完成を祝いました。

※同日に開催された白糠学園・白糠こども園落成記念式典と祝賀会の様子は、来月号でお知らせします。



右) 台風や豪雨により茶路川の増水・氾濫時の被害が懸念されることから、子どもたちの安全確保を優先的に考え、さらには幼保、小、中学校との連携が子どもたちにとって最適な教育環境であることから、幼児教育と義務教育が円滑に機能する一体型施設を整備しました。
左) こども園のプレイルームには、楽しみながら体力をつけられるようボルダリングを整備。